

内モンゴルの牧民オンドルマさんを救う募金活動の報告

初夏の候、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当基金が実施した内モンゴルの牧民オンドルマさんを救う募金活動についてご報告いたします。

募金活動は4月18日から5月18日までに行いました。当基金のメンバー以外に、個人や企業から温かいご支援をいただき、合計187,000円が集まりました。この金額を5月20日の円→人民元レート(100円=5.15元)により換算し、内モンゴル大学教授ヘシグバヤル氏(当基金の前理事長)が建て替えし、それに足して1万円にしてオンドルマさんへのお見舞い金を用意しました。そして、5月27日に、内モンゴル大学のサインチョクト教授(当基金の元理事長)とヘシグバヤル教授が当基金を代表し、オンドルマさんが入院中の包頭市の病院を訪れ、お見舞い金と励ましのメッセージを手渡しました。その際に、内モンゴル日報の記者二人が同行し、5月28日に関係記事を内モンゴル日報に掲載しました。

オンドルマさんが海のそなたからの温かいご支援と励ましに感激のあまり涙を流しながら、支援していただいた方々に心から感謝していますと言っていました。

その後の状況ですが、オンドルマさんから6月2日に無事腎臓移植の手術が行われたとの連絡がありました。最後になりますが、今回の募金活動にご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

また、オンドルマさんの一日も早く快復をお祈り申し上げます。



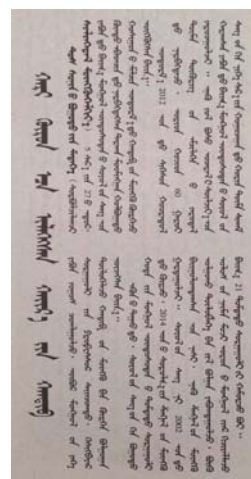
オンドルマさんへお見舞金とメッセージを
(左1:ヘシグバヤル氏、左2:サインチョクト氏)



励ましのメッセージを手に



オンドルマさんのご両親と



内モンゴル日報の報道
(海外からの愛の募金)